

利益マネジメントと旧経営者の影響

海老原専門ゼミナール第3部
武蔵大学 経済学部 金融学科 4年
佐藤萌々乃・春宮咲希・守谷昌紘

要旨

本研究は、新旧経営者の年齢差を起因とする、経営者交代時における利益マネジメントの検証を目的とする。新旧経営者の年齢差という視点を取り入れることで、利益マネジメントの動機やコーポレートガバナンスに関する議論に新たな視点を与えることを企図するものである。第2節では東芝による不正会計の実例を用いて、利益マネジメントを繰り返す動機に旧経営者の存在を挙げ、日本社会に強く根付く年功序列の慣習によって年長の旧経営者が後任かつ若齢の新経営者に利益マネジメントを強制する圧力の存在を示唆した。第3節では、前節の推測をもとに新旧経営者間の年齢差に着目し、「新任経営者が旧経営者よりも若齢であるほど、新経営者就任時に過度の利益マネジメントが行われる。」とする仮説を設定した。被説明変数として、修正 Jones モデルに基づく裁量的アクルールズの絶対値を用い、新旧経営者の年齢差 $Diff_{it}$ を説明変数とする分析モデルを構築した。第4節では、分析結果を示し、新旧経営者の年齢差が利益マネジメントに影響を与える可能性が提示されたものの、期待とは逆の結果となり本研究の仮説は支持されなかった。この結果の原因としてアクルールズの反転の影響を受けている可能性を指摘し、第5節ではアクルールズの反転を考慮した追加研究を行った。追加研究の結果、新経営者の利益マネジメントが旧経営者の利益マネジメントの反転の影響を受ける結果が得られた。就任したばかりの新経営者は、裁量的な行動をとることが難しく、旧経営者の利益マネジメントの反転が新経営者の利益マネジメントとして誤って認識されている可能性が示唆された。加えて、経営者の交代理由と新経営者の属性が、旧経営者の利益マネジメントに大きく関係していることも判明した。以上のことから、経営者の交代理由を考慮した分析が今後の研究課題となる。経営者の交代理由に応じて、経営者が利益マネジメントを必要とする動機も異なると考えられる。